



□ 学校の特徴

1 学校の環境の紹介

本校は、彦根市の中南部に位置し、北に琵琶湖に注ぐ犬上川、西に荒神山を望む自然豊かな田園地帯に立地し、緑あふれる静かな環境のもと、生徒は落ち着いて勉学に励んでいます。学区内は、住宅地の造成をはじめとして、県立大学や文化施設・大規模商業施設などの開発が進み、人の交流も盛んです。

2 学校の主な歴史の紹介

昭和22年	(1947年)	4月20日	彦根市立南中学校として、3校舎で開校
昭和27年	(1952年)	6月4日	生徒会会則を制定
昭和31年	(1956年)	3月1日	校歌制定 作詞 木俣修氏 作曲 沖不可止氏
昭和34年	(1959年)	4月1日	河瀬中・高宮中を統合
昭和57年	(1982年)	4月1日	平田学区を西中学区へ分離
昭和62年	(1987年)	4月1日	彦根市立彦根中学校と分離
平成2年	(1990年)	1月28日	新校舎竣工を祝う会・見学会開催
平成9年	(1997年)	11月15日	創立50周年記念式典挙行 記念誌発行 「風かをる庭」完成

□ 生徒活動の特徴

1 生徒会活動の紹介

南中生徒会の伝統を引き継いで、執行委員会を中心にあいさつ運動や環境美化活動をはじめ、よりよい学校生活を送れるように、各委員会ともに活動を活発に行っています。

- 生徒会本部役員・執行委員会
- 中央委員会
- 生活安全委員会
- 文化委員会
- 環境委員会
- 保健委員会
- 体育委員会
- 図書委員会
- 福祉委員会



朝のあいさつ運動



生徒総会

2 学校行事の紹介

南中独自の伝統的な行事を行っています。

- 4月 入学式
3年修学旅行
- 5月 生徒総会
- 6月 1年彦根フィールドワーク 10月 トーク&コンサート
- 7月 2年職場体験学習



生徒会 Wash&Cleanデー
夏季総体壮行会

- 9月 体育大会 芸術鑑賞



全校で創り上げる伝統のマスゲーム



- 11月 合唱コンクール 市音楽会壮行会
福祉体験学習



- 12月 生徒会Wash&Cleanデー
- 1月 学年カルタ会
新入生説明会
- 3月 球技大会
生徒会
Wash&Cleanデー
卒業式 修了式



秋の中庭

3 設置部活動の紹介

各部ともに、先輩たちが努力して残された輝かしい伝統と成果を引き継ぎ、目標に向かって、毎日活発に活動を続けています。

- 野球部 男
- 陸上競技部 男・女
- サッカー部 男
- 水泳部 男・女
- ソフトテニス部 女
- ハンドボール部 男
- バスケットボール部 男・女
- バドミントン部 男・女
- バレーボール部 女
- 卓球部 男・女
- 剣道部 男・女
- ホッケー部 男・女



第60回滋賀県中学校夏季総合体育大会
男女総合の部 6位
女子の部 3位
水泳女子総合 優勝
ホッケー女子全国大会準優勝



吹奏楽部

男・女

美術部

男・女

創作部

男・女

コンピュータ部

男・女



□教育指導に関する力点の紹介

「分かる」「創る」「ふれあう」「できる」「尽くす」の五つの喜びの演出

① 教科等の基礎・基本の徹底定着と個性を伸ばす教育の充実

週29コマの時間割を設定して、授業時間の確保はもとより、特色ある教育課程の創造を具現化しています。また、平成18・19年度に研究主題を「主体的・意欲的な学習活動を支える授業の創造」として、これまで研究を深めてきた「教科等の指導法と評価のあり方」の研究成果を踏まえ、さらに基礎・基本の徹底を図っています。また、学びの環境を整え、自己の向上に取り組む生徒の育成を図り、魅力ある授業づくりを通して、学習の評価を活かした生徒自身が主役となる



る学習指導のあり方を追究しています。個に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、今年度も数学・理科において少人数学習集団による指導を取り入れて展開しています。基礎学力の定着についても、毎日の日課の中に10分間の学力補充の時間を設定し、組織的な取り組みを押し進めています。

特に、4Rsの定着と国語力（読み取る力と目的に応じて書く力）の向上をめざして、各教科はもとより、生活ノートの一斉英作文の設定等、学級指導の場面においても計画的に展開しています。

② 自ら学び、自ら考える力をはぐくむ教育の充実



本校の総合的な学習の時間「南中タイム」をこれまでの積み上げをもとにさらに充実させ、教科を横断した学びを深めています。「ふるさと地球学習」・

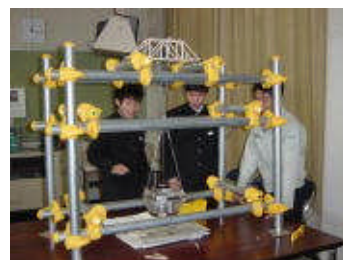


「生き方学習」・「共に生きる学習」をテーマに課題や目標を整理し、「生徒自らの課題解決の力」と「生き方への振り返りも含めた学び」を身につけます。

キャリア教育を推進し、人間関係形成能力、進路選択能力、意志決定能力、将来設計能力等の社会人・職業人として、基礎的な資質・能力の育成を図ります。

全教育課程を通して、生きる力の基礎となる学習を積み重ね、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会での自立をめざしたキャリア形成を推し進めます。具体的には、計画的な学習プログラム作りを整備し、大人の生き方に触れる体験活動を効果的に組み入れます。

また、各教科・道徳・特別活動においても、積極的に体験的な学習を取り入れるとともに、地域の人材や外部講師の積極的な開発・活用を図ります。情報活用能力の育成を図り、コンピュータ活用を計画的に展開し、調べ学習や学習発表プレゼンテーション等に活かせるようにします。



③ 豊かな人間性とたくましい体をはぐくむ教育の充実

道徳教育・人権教育・朝の10分間読書を充実させ、「いのち」・「人権」を大切にする『心を育てる教育』の推進を図り、「輝きと温もりと感謝に満ちた学校」をめざし、一人ひとりが自分の力をおもいきり発揮でき、学校生活のあらゆる場で、お互いが共に認め合い、支え合い、高め合っていける生徒の育成をめざし人間性豊かな心を耕し育てる教育の充実を図ります。

あらゆる教育の場面で生徒のうちに秘めた力やよさを発揮できる場の構築を目指す生徒指導を充実させます。一人ひとりに「活動の場」を与え、自主性を育てる特別活動を展開し、一人ひとりが大切にされる民主的な集団づくりを進めます。

運動部・文化部の部活動を充実させ、個々の興味関心を深めさせるとともに、自己達成感・充実感を味わわせ、学校生活全体への活力としていきます。不登校をはじめとした学校不適應への対応に積極的に取り組み、教室復帰をめざします。スクールカウンセラーや訪問教育相談員等の専門家の助言を受けて、組織的にケース会議等を開催し、チューター大学生の協力を得る等の創造的な支援活動を組み立てながら、保護者や関係機関との密接な連携を図っていきます。



④ 地域に開かれた学校づくりの充実

家庭、地域や諸団体との連携を深め、一層開かれた学校づくりを推進します。教育改革の方向性を踏まえ、様々な学校の取り組みを地域へ発信しながら、「共に子どもを育てていく」という考え方に立って、家庭、地域や諸団体との連携を深め、より一層開かれた学校づくりを推進します。地域清掃等の地域活動への参加や小学校区で開催される学区民運動会や文化祭にボランティアとして参加協力等、生徒の積極的な参加を進めます。毎月発行の生徒指導だより「風かをる」の地域への配布をはじめ、地域への授業公開等、学校からの情報発信を積極的に進めます。



「11月1日 滋賀教育の日」を中心とする一ヶ月間を啓発期間として、授業参観やオープンキャンパス等学校公開の機会を増やし、本校の教育の状況を知らせていきます。また、学校運営の状況説明やその実施達成状況について内部の自己評価はもとより、外部評価も含めた学校評価を実施し、その結果の公表について工夫し、学校として自主的・継続的な改善を行い、説明責任を果たしていきます。

また、PTA活動をより重視し、学級懇談会、地域懇談会、学年親子活動、学年PTAの諸活動等の充実を図ります。

⑤ 教師力を高めるための力点

鋭研修 正勤務 明職場

「目標によるマネジメント」を活かして、学習指導・学級経営・生徒指導等、専門職としての教員の専門性を磨き、教育課題の解決に向け、優れた指導力を身につけるための研修に努めます。新学習指導要領の効果的な展開をめざしたカリキュラムの見直しを進め、生徒の自主的・自発的な学習を促すとともに確かな学力の定着を図ることができる学習指導法や授業の工夫改善と評価の研修を深め、指導と評価の一体化に努めます。

⑥ 特色ある南中教育の充実

今年度も「一校一行」運動として、重点目標「ロッカーの整頓」を行動化していきます。各学級にある生徒個人のロッカーの整理整頓をしっかりさせることにより生徒一人ひとりの学習環境づくりへの意識を高めることを目指します。設定の理由として、学校における教育活動の中で、生徒が自己の視覚を通して学んだり感じたりすることによって自己の内面を培っていくことがたくさんあります。そのひとつとして、学習環境の整備はこうした視点からも重要な意味を持ち、生徒自らの意識を高め、行動化から、結果として、学習の成果を高めるとともに、ひいては、全人格的な自己向上のために何事にも自ら率先して取り組む姿勢を育てていくことに繋がっていきます。



- 重点目標達成のための具体的な取り組み
 - *朝の会、帰りの会時における学級担任による点検と意識化
 - *毎時間の授業者による点検と意識化
 - *生徒会生活安全委員会の週番活動における点検と意識化
 - *職員による校舎内外の美化活動（ゴミ拾い）、営繕活動による意識化
 - *校舎内外をはじめとする教育環境の条件整備推進による感謝の心の意識化

⑦ 安全・安心な学校づくりの充実

自ら、危機を予測し、回避する能力を身につけるための「安全教育」の充実をめざして年間を通して計画的に推進するとともに、昨今の子どもを脅かす不審者による学校や通学路での事件等に対して、生徒を取り巻く外部環境を安全に保つための「安全管理」を円滑に進め展開します。校内体制のさらなる整備とともに家庭・PTA・地域・関係機関等との連携をこれまで以上に図り、組織的な活動を展開し、AED救急救命対応の技術等を身につけ、生徒の安全確保体制の充実に努めます。



□校内研究

(1) 研究主題

学ぶ意欲をひきだす評価のありかた ～ 授業に活かす生徒の自己評価・相互評価と指導者の評価 ～

(2) 主題設定の理由

2年間の「主体的・意欲的な学習活動を支える授業の創造」と題しての研究を、①授業づくり部会、②学習環境部会、③調査・分析部会の3つの部会を組織し、各部会の取り組みにより、学習環境を整え、授業の改善に取り組んできました。また、生徒の意識調査をしながら、さらなる改善の糸口を探って、授業改善に生かそうとしてきました。さらに生徒が学習に主体的・意欲的に取り組む授業の創造を中心とし、授業研究を通して授業改善を図り、「分かる授業」や「個に応じた指導」により、「分かる楽しさ」「やってみようとする意欲」を育てる取り組みに努めました。その中で、学習に対する意欲が芽生えてきたり、学習に取り組む姿に真剣さや楽しさが感じられるようになってきた生徒が増えてきたといえます。しかし、生徒全体からみるとその比率は決して高くはないと思われます。

そこで、生徒自身が自己の学習の理解度や定着度をきちんと把握し、習熟に努力したり、次なる目標を定めて発展をめざす意欲を持つことが必要であると考えられます。そのための生徒による適切な自己評価や率直な相互評価によって、生徒自身が「何がわかっているか、わからないか」を理解し、「わかりたい、もっと向上したい」と考えるであろう。また、それらの評価が、とりもなおさずさらなる授業改善に結びつくものであることから、この主題を設定しました。

(3) 研究内容

- ① 授業内容に応じた、適切な自己評価・相互評価を探る。
- ② 評価から学びへの意欲付けを図る方法をくふうする。
- ③ 評価を生かした授業改善の工夫を図る。

(研究の仮説)

生徒個々が適切な自己評価・相互評価を行うことで、自己の学習到達度を知り、次の学習への意欲を高めると共に、指導法の工夫改善につながるものと考えました。

(研究の方法)

- 全教科で、授業内容に応じた、生徒の自己評価・相互評価を作成し、実践します。
- 教科部会を定例化して、単元毎の評価について交流します。
- 夏季休業中に1学期の実践の交流を行い、2学期からの実践に工夫を重ねます。
- 学習診断テストを行い、学力の定着度を把握します。
- 学習実態アンケートを行い、生徒、教師、保護者の実態・意見・要望の把握を行います。